



親と子

「子どもはいつも親に感謝しなければならぬ。ずっと親にお世話になっていくからだ。」いや、親こそ子どもに感謝すべきなのだ、子どもは親の喜びだったし、それで、子どもは親に充分尽くしているのだ。」と言うような議論になった。両方とも正しいような気持ちがある。親

のお世話にならない子どもはいないであろう。親がいればこそ、子どもは育つのだ。しかし、お世話する子どもに恵まれない親は不幸である。あ

のかわいい眼で何かを願うわが子を見る時、仕事の苦勞などを忘れてしまふ。我が子のためと思えば、苦勞が嬉しくなるのだ。「我が子には何でもあげたい。」と思わぬ親がいるだろうか。

子ども虐待の事件が報じられる。子どもがお供えのお饅頭を取って食べた、懲らしめのためと言うことで親は子どもを木に吊つておいた。子どもは初め怒つたであろう。しかし、だんだん寂しくなり、力も尽き果て、泣いたであろう。そして、親が帰つた時には、「ごめんなさい」と静かに繰り返していたと言つた。あの子どもはその跡、力尽きて死んでしまった、とのこと、ただ、あの「ごめんなさい」と言う言葉は、親への最後の信賴の印であり、赦しを願う心ではなかつたろうか。親子の間は極限の時でも美しいものだ。そんな子どもにいつも親の愛を、と叫びたい。

カトリック司教 松永久次郎

精神衛生上、中絶より出産を

(新たな研究報告二例)

二〇〇〇年六月、フロリダ州マイアミビーチで開催されたアメリカ心理学会(APS)の例会で発表された新たな研究報告によると、妊娠中絶を経験した女性はその後何年かは精神的健康を害するリスクが増大するという。

この調査は一九八九年に妊娠中絶あるいは出産を経験したカリフォルニア州の女性で、公的補助による医療行為を受けた女性を対象にした。中絶あるいは出産後六年間にわたる女性の医療記録を調査した結果、中絶を経験した女性

は出産した女性に比べて、精神障害を起こして医者にかかった例が非常に多かった。中絶をした女性の中には、精神科で二回から九回の治療を受けた人が、妊娠を全うした女性に比べて二倍以上いた。

報告書の執筆者である、サウス大学の心理学教授プリシラ・コーマン博士とエリオット研究所所長デーヴィッド・リアドン博士によると、「この報告書の中のデータは、低所得層の女性にとって妊娠中絶は出産と比べると精神障害と結びつくリスクが格段に大きい」

ということを示唆している。

リアドンによれば、本研究は中絶後の経過を調べたこれまでの他の研究例が抱えていた多くの問題点、例えばサンプル数の少なさ、調査期間の短さなどを克服している、

と言つた。「他の研究の多くは、対象となる女性をせいぜい数ヶ月しか調査していない。しかし、長期間にわたつて調査した数少ないこの研究例が示すところによれば、多くの場合、中絶後少なくとも一年くらい経つてからでない」と女性に何らかの問題は持ち上がらない。その問題が持ち上がる頃とは、中絶していなければ迎えたであろう出産予定日の頃や、中絶後ちょうど一年が経つた頃であることが多い。

本研究はより長い期間調査を行うことによつて、妊娠中絶とそれによつて起こる精神的な問題との関連をより明確に考察することが出来た」とリアドンは述べている。

一方、ニューヨーク州立大学オールバニー校の研究者がAPSの例会で発表したもう一件の新たな報告によると、子どもを出産した十代の女性は、出産しなかつた十代の女性に比べて環境に順応する能力が同等以上であることがわかつた。出産をしなかつたグループに比べて、母親となつた十代の女性たちは精神障害を起こすことが少なく、ストレスも少なく、問題に対処する手段として否認を選択することが少なかつた。また母親になつた女性たちの方が、社会保障に依存することが少なく、受け取った保障に対してはより満足を示したという。

「これら二件の研究報告は、妊娠中絶は女性全般、特に十代の女性のためになる、という一般的な概念を根本からくつがえすものである、」とリアドンは言う。

「子どもを生むということは本来人間として成熟する経験である。対照的に、中絶はその後心理的な問題のリスクを増加させる。その中には我々の以前の研究で報告されたように、アルコールや麻薬の濫用に関する六倍のリスクも含まれる」とも言う。

(エリオット研究所)

タミー

それは一九七一年の一月だった。私は15歳で、妊娠していた。

当時中絶は合法化されていなかったが、心配した親戚の一人が電話をくれ、私と両親に中絶なんてやめるようにと懇願してくれるまでは、私には中絶しか方法はないように思っていた。その親戚が言ったのは、中絶のせいで心に負う傷やそれによる影響は、払うには大きすぎる犠牲だという事だった。

両親と私は話し合って、結論を出した。赤ちゃんは殺さず、養子に出す事にした。それによって長い心の旅が始まった訳だが、その夜に出したその結論は疑う余地もなく、たった一つの正しい選択だったのである。

一九七一年九月十七日、私は健康な女の子を出産した。病院で赤ちゃんといっしょに過ごせた三日間の短い間、私はその小さな手、足の指をひとつずつ、そして顔や目の形を記憶した。もう二度とこの子を見る事はないと判っていたので、私はその子の姿形を自分の心に刻み込んでおこうと決めたのだ。三日の間、私は祈り続けた。この子を守り、よい家とよい家族を与え

て下さいますよう神にお願いした。私の祈りを通して、神がこの子を守り、必要なものを与えて下さる事を信じた。

それから時は流れたが、私はその女の子の為に度々、特に毎年九月十七日に、お祈りする事を決して忘れなかった。私は瞬時にあの可愛い赤ちゃんの顔をおい出す事ができ、髪の毛のにおいも覚えてるし、あの小さな足や手の指をまだ自分の手の中に感じる事ができた。

一九九一年の九月、母から電話があった。母は声高に、「あなたの娘があなたを探しているのよ!」と言った。私は座り込んでしまい、あまりのショックにしゃべる事も全くなかった。その後三時間の間、私は泣いたり笑ったり、部屋の中を行ったり来たりしていた。

娘の名前はタミーといい、彼女は一年以上前から、この時を迎える準備をしていたと知った。タミーの両親も、タミーが私を探すのに、常に協力してくれていたという。中でも一番嬉しかったのは、彼等がクリスチャンだという事だった。タミーは私にこんな手紙を書

いてくれた。『愛するお母さん、これがあなたにとって驚きだろうとは思いますが、どうか辛い思いを思い出させない事を祈ります。お母さんを悲しませたり、お母さんの人生を壊してしまいう事だけはしたくないと思っておりますが、でも私は心から自分の気持ちや伝えたいのです。自分の一部を犠牲にしてくれるなんて、お母さんはよっぽど私を愛してくれていたに違いないと私はこれまでの人生の中でずっと考えてきました。あなたを探せば探す程、あなたを知れば知る程、私はあなたがどんなに私を愛してくれていたかわかったのです。何が起きようと、例えお母さんが私に会いたくなくても、私はいつもお母さんを愛しています。もしお母さんが見たかったら、同封の別の封筒の中に私の写真が入っています。私は是非お母さんに会って、もっとお話ししたいのです。お母さんに何かして欲しいなんて思っていない。ただ、私がお母さんを愛しているという事を知って欲しいのです。タミー。』

震える手で、私は写真の入っている封筒を取り上げた。その美しい顔を再び見た時、私の心に湧き上がった愛情に私はどうする事もできなかった。神が私の人生の中にこの子を組み込んで下さり、又この子に会える機

会を下さる事によって祝福して下さった事を私は心の底から熱心に感謝した。

私は返事を書き、何年間も彼女の為に祈りしていた事を打ち明けた。確かに私の一部を遠くへやってしまうのは辛かったけれど、私は一番良い方法を取ったのだと彼女に知らせた。けれどこのような事をわざわざ言わなくても、タミーはもうそれを理解していたのだと段々判ってきた。タミーが私に言いたかったのはただ、ありがとう、愛しています、という事だった。

一九九二年一月、私は飛行場でタミーの飛行機が着くのを待っていた。私がタミーを見つけると、その直後にタミーが私に気が付いた。最初の二時間私達は、時々「信じられない」と囁きながら涙を流し、抱き合い、微笑む以外は、あまりしゃべらなかった。

タミーは、普通のお母さんと娘がするような事...お昼を食べに行ったり、買い物したり、美容院に行ったりしたいと言った。彼女は誇らしげに自分の家族、同じく養子である兄弟、友達や婚約者の写真を私に見せてくれ

大きくなった娘との再会
手放した時の祈りとともに蘇る
私を包む安堵感

た。私達は何時間もかけてお互いを知り合い、おしゃべりし、笑い、抱き合って、泣いた。タミーは自分の人生に起こっている沢山の幸せにとても興奮していた。卒業、結婚の計画、新しい仕事のこと。

いっしょに過ごした一週間はあまりにも早く過ぎたが、タミーを彼女の両親の元へ帰すべく又飛行機に乗せた時には、心の中には穏やかな幸せと祝福の気持ち、静かに燃え上がっていった。

それから続く数ヶ月、私達は最後に連絡を取り合い、一九九三年六月、私はタミーの結婚式に出席した。私は一人の出席者として教会の後ろの方の席に座

ればそれで幸せだと思つていたのだが、そういう訳にはいかない事がすぐわかった。タミーのここにこした兄弟が、通路を通つて一番前の列の席に私を連れて行つてくれ、そこで私は親切に愛すべきタミーのお母さんとお父さんといっしょに座った。私は心から溢れ出る喜びを抑える事ができず、又、涙が出てしまった。十字架を見上げながら、私は改めて、私達の神はなんて思いやりと愛を持った方なんだろう、そしてここに居られる事は、なんて特別な名譽であり、なんてお恵みなんだろうと悟つた。

その後数ヶ月間、私達の関係は濃くなつていった。タミーを知れば知る程、この愛する子が私にとつて、又は彼女を知つて他の皆にとつて、どれだけ特別な存在かという事を知るようになった。タミーは、私が中絶をしなかつた事に対して何回も感謝してくれた。私は、タミーのいのちとは、神がこの暗い世の中に向けて示した信仰の声明で、タミーは神による光りと愛の表現手段だったのだとはつきり判つたのである。

る程びつくりした。私は耳にした言葉を信じる事ができなかった。「亡くなりました。」三日後私は、一年にもならない前に彼女が結婚したのと同じ教会にいた。今回教会の通路を歩くのは、多分これまで経験の中で最も長く悲しいものであつただろう。私の中の小さな声が、これはタミーではないと私に確信をもつて囁いた。本当のタミーは今イエス様といっしょにいるのだから。

そう、私は二度タミーを失つたけれど、これだけは確かである。私はもう一度天国で彼女に会える。

もし、一九七一年一月のあの日、私がああ光りを、輝くチャンスもないまま摘み取つてしまつていたら、タミーが居るべき場所には虚空が残つたであらう。愛すべき若いカッパルには、新しく生まれた赤ちゃんを愛して育てる事はできなかったであろう。弟は姉を持つ事はなかった。友人達は彼女の愛、がんばり、勇気を教えられる事はなかったのだ。タミーの夫の腕も心も空っぽになり、そして私は全人生を通して、最高の祝福と神の愛とやさしさの印しを、受けられない事となつていただろう。人間の生命の尊厳さとは、かくも尊いものなのである。

サンドラ・ダーリング

ロザリオはプロ・ライフ運動の祈り

若い頃、私はサレジオ会の神学校で学びました。サレジオ会員の習慣の一つは毎日ロザリオを唱えることです。一人であっても、仲間と一緒にあつても、また聖堂の中でも神学校の庭を散歩しながらでも、私達はいつもそうしたものです。

なぜロザリオはプロ・ライフ運動の祈りなのでしょう？

まず、プロ・ライフ運動の力は福音の心から湧き出ます。キリストは生命でしょう？ であれば、キリスト信者はプロ・ライフであるはずですが、ロザリオは世に生命をもたらした福音の中の出來事を黙想する祈りです。聖書に基づく祈りの言葉を使いながら、ロザリオを唱える人はキリストの御託身と誕生、その幼時期の出來事、そのいのちを捧げられた御受難と死、御復活、御昇天、全宇宙の主であられることを黙想します。ロザリオの中心はキリストですから、その中心は生命です。ロザリオがプロ・ライフの祈りである基本的理由はここにあります。

第二に、ロザリオは生命の母であるマリア様を敬つ祈りです。「御身は女の内にて祝せられ…」

(ルカー：42)。マリア様は生命に、はいと答える恵みを受けていました。「御胎内の御子イエズスも祝せられ給う」。マリア様の御胎内にあつて、イエズス様は全人類と一つになられました。その中にはまだ生まれていない子どもたちも含まれていたはずですが、キリストがその御母の御胎内で最初の瞬間から私達の主であり、兄弟であられたように、どの子どもその存在の最初の瞬間から、同じく私達の兄弟姉妹なのです。胎内のすべての子どもたちは祝せられています。

第三に、ロザリオは母親と子どもが分離できないものであることを思い起こさせてくれます。子どもを愛することはその母を愛することを含みます。これはプロ・ライフ運動の中心にある深い真理です。私達は「赤ちゃんは愛さなくてはならないが、母親の方はどうでもいい」と思つていません。本物のフェミニズムはプロ・ライフです。本物のプロ・ライフ運動家であれば女性の尊厳を守るはずですが。

最後に、ロザリオは私達に謙遜の徳を与えます。「罪人なる我らのために祈り給え」と私達は繰り返して祈ります。そうすれば、私達は自分が他の人より偉いと思わないようになり、中絶の悪がなくなるように祈りながら、またそんなことをする人々が回心するように祈りながら、私達は自分達にこそ回心の必要があると宣言するのです。自分達の罪深さを意識すればするほど、私達は、中絶をする誘惑に駆られている人達に対して同情心を持つことができます。

マリア様は私達のために、そして私達と共に祈つて下さいませ。マリア様は、中絶がなくなるようにという意向で捧げられた無数のロザリオを、一つとして無視なさることはありません。それどころか、マリア様はそれらのロザリオの一つ一つを生命の源、死に打ち勝つ方、生まれざる子どもたちの救い主である御子に捧げて下さいませ。マリア様はいつも私達が捧げるロザリオの功徳を御子に捧げて下さいませ。生命の国は必ず到來します。

フランク・バヴォーン



ママ、中絶ってなあに？

3人の子どものうち一番上の6歳になる息子にはとにかく驚かされた。息子はどこかで政治関連のニュースを聞いてきたらしく、「ママ、中絶ってなあに？妊娠中絶合法化支持ってなんのこと？」と聞いてきたのである。どうしても答えを知りたいという勢いだっただ。

私はまったく意表をつかれた形となった。もちろん、それらの言葉の意味を知らなかったからではない。政治的論争をはるかに上回るようなことに初めて気づかされたからである。つまり、自分の子どもにそのような説明をすることが耐えられないという事実である。目の前にいるのは、お父さんとお母さんは自分にとっても献身的で、愛情たっぷりを守ってくれると信じて育ててきたかわいいう無邪気な少年なのである。

して耐えられようか？若くておびえたお母さんたちの多くが選択「の余地がなくてそうするしかない」と話さなければならぬような文化に暮らしていることを、どうして伝えられようか？そして子どもにとって一時は安全地帯であったはずの母親の子宮に手を入れ、切り刻んだり、毒を使ったりして、それを取り出し、心臓の動きを止めることで生計をたてている医者が存在するということを…？

私は、小さな心臓が鼓動する様子、特に息子の時のことをよく覚えていた。初めて生まれる息子がまだおなかの中にいた頃、私は何もかもが心配だった。初めのうちは、自分が妊娠していると「感じる」ことがなかったという理由だけで、息子を失ったかと思っただけだった。泣きながら医者に行くと、超音波検査をしてもらった。すると息子は確かに存在した。たったの6週間、妊娠からまだ6週目だというのに、息子の頭と体はつきりわかり、小さな両腕と両足がきちんと発育しているのがわかった。そしてそこには驚いたことに、心臓、大切ないのちを求めて鼓動している心臓があったのである。（実際はその数週間前から動き始めていたらしいのだが。）息子はとても小さくて、明らかに私なしでは生きられないのであった。だからこそ、私は息子を必死に守っていかなくてはならないのではなかったのだろうか？

合衆国では毎年一三五万件もの中絶が行われていて、それは私が、生まれる前の息子を見た時点よりもさらに後半の段階で行われているのが通常のようにある。痛ましいことに、この数には、アメリカ医療協会が「医学的にはまったく問題なし」とするぞつとするような後期の時期における中絶が含まれているのである。それにアメリカでは年間約五〇〇〇ものパーシヤル・バス・アポーションが、医師によって行われている。

そして、それらは全て合法とされているのである。私は自分の子どもたちには、最も幼い子どもたちには、最も弱い人も最も老いた人も、また体の弱い人や傷つきやすい人も含めて、全体的に、尊いと信じて育ててほしいと願っている。だが、社会が正反対のことを叫んでいる現状において、私の努めは非常に難しいといわざるを得ない。

さらに追い討ちをかけるように、いずれ私はピル、そのピルが、外科医の恐ろしい役目を果たすことになるのを説明しなければならぬだろう。つまり、いのちが「薬」によって終わらせられることがあるという事実を。今年の9月30日には米国食品医薬品局が、アメリカ国内においてミフエプリストンとミソプロストール、またはRU486を墮胎薬として認可することになっている。これらの薬を妊娠7週目に連続して服用すると、95%が薬による流産にも似た「医学的中絶」を引き起こすことになることになっている。

そして私たちは、いとも簡単に「投薬によって消された」小さいのちの大虐殺をみることになるのである。それは間違いなく、ピルでいのちを破壊させる女性にとっては感情をそぎ、良心をくじくものとなるだろう。それはまたそのような最悪な事態を容認し奨励するような社会なのである。

私は自分の子どもたちを見ると思わず悲嘆に暮れてしまう。子どもたちを取り巻く文化と、子どもが尊いと信じて育てて

レシピと指導

きれいで美味しいケーキを作る為には、すべての材料を混ぜ合わせなければならない。もしこの一振りのバニラ、又はこの卵を一個加え忘れたなら、味に深みがなくなってしまう。料理の作り方とは、その指示にきちんと従う事によってのみ成功が保証されているのであって、それは貞潔に關しても同じである。

貞潔とは私達の性的な事を「清める」美德であり、私達の性とは神から与えられた贈り物で、もし正しく扱えば、私達に幸せと神聖さをもたらしてくれる。これは当たり前のように聞こえるかもしれないが、十代の若者の妊娠、中絶、性病の率の高さを見ると、何が間違ってしまったのかと考えると、何が間違っていないか、そして何が間違っていたかといえ、それは性的な間違っただけの扱い方なのではないか！

その前にレシピと指導に話を戻そう。神は成功へのレシピ(処方)と、性的正しい扱い方を教えて下さったのでしょうか？ええ、教えて下さっています！神は聖書、モーゼの十戒、そして貞潔で純な人生を生きる為の美德を与

えて下さった。神は聖書で「姦淫を避けよ」と私達を指導し、十戒の六番目の聖訓として「姦淫してはならない」とおっしゃっている。そして神は人生の成功へのレシピとして貞操のすばらしい美德を与えて下さったのです。

今日の社会ではほとんど聞かれない貞潔という言葉は、性の自己管理という意味である。それは自分達の性を理解し、神がそれをどの様に扱って欲しいと願っているか理解する事！そして、それは婚前交渉をしない事、神がそうあるべきとしたように配偶者と性交する事！つまり貞潔という言葉の美しさは、すべての人に当てはまるところにあるのです！

辞書で見ると、貞潔の説明に使われている言葉に「清らかさ」がある。自分達の身体に汚れたものが入って欲しくないと言つて空気や水に清らかさを求めるのはよく分かるところだが、自分達の身体の行動の汚れについても同じ様な心配をしているのでしょうか？それと同じように害があるのではないのでしょうか？もちろんそれは有害であり、だ

からこそ清らかさは貞潔の中心的要素の一つであり、つまりは精神的にも性的にも健康である事の中心的要素なのです。

もう一つの貞潔の大切な要素は、禁欲です。飲酒は感情を激しくし、良心をにぶくしてしまふ。そして禁欲(節制)が実行されなければ、私達の性への自己管理は「手に負えなく」なってしまうかもしれないのです。

貞潔に必要な別の要素は慎み深さであり、私が言いたいのはこの事です。慎み深さは私達の服装の事で、自分達の性が神からの贈り物だと思つたら、きちんとした服装をしなければならぬのです！もしあなたが友達に高い結婚祝いを買つたとするなら、それを安っぽく汚い紙では包装しないでしよう。美しい包装紙は贈り物の価値を高め、私達の服装は私等の性の価値を、高めたり下げたりするのです。

今日のファッション業界は景気がよく、みだらな服はよく売れる。多くの映画では裸同然がよく見られ、衿ぐりの深いドレスや膝上のスカートはテレビや雑誌での女性タレントの「ユニフォーム」になってしまったようです。私達の身体は神の美しい創造物だが、使い方によっては間違つた事になる。性交は結婚した者同士のもので、性の交

わりはお互いへの結婚のプレゼントであるはずなのです。自分達がどのような服装をしているかは周りに影響を与え、もしそれが性交を誘っているように見える服であつたなら、それは自分も周りも危険に陥れる事になるのです。

私達の貞潔と人生の為に良いモデルが必要なのは当然な事です。それには聖母マリアがぴったりです！マリア様は清らかで貞潔ですから、私達は彼女の慎み深さを真似し、貞潔な人生を送れるように助けて下さいと祈りましょう。

慎み深さは貞潔につながり、貞潔は神を喜ばすから、私から

あなたへいくつかの慎み深さへのガイドラインを伝えましょう。
a) 見せれば見せる程、ノーと言いにくくなる！

b) 性は神からの贈り物だという服装をしない。安っぽくしないで！

c) あなたの性を守りなさい。神が下さったのだから！

d) 慎み深さへのイエスは、汚れへのノー！

忘れてはいけないのは、貞潔へのレシピは試作済みで確かではあるけれど、本当に成功するにはすべての材料が混ぜ合わされなければなりません！

モリー・ケリー

子育て

子育て、という、ロングセラーの、傑作を、綴り終えると、そこに、私の忘れ去っていた、宝が、求め得ずとも、帰ってきた。久方ぶりの、懐かしい、私との対面。

有意義に、使ったかどうか、今、結果は、望めない、しかし、いつの日か、きっと、

この子らが、与える、その子らに、自分の時間を、どう、捧げるのだろう、繰返し、繰返し、続く子育て、

満点の取れない、さみしさを、少し残して。

高知詩集 (大坪優子)

資 料 紹 介

ビデオ【409】

『聞こえますか。天使の鼓動』

日本語 20分

6,000円+送料

詩編 22:11の言葉に続いて、沢山の水子地蔵の側で、辻岡健象先生はいのちを与えられながらもこの世に生まれて来れなかつたいのちは、ある調査によると、年に500万と言われると述べています。

埼玉県の南福音診療所の石黒妙子医師は、いのちは世界より重いと考へ、直接いのちに関わりたくて、産婦人科医の道を歩んで20年になろうとしています。ここで働く三人の医師は人を殺してまで、自分は医師として生きて行く資格がどこにあるかと思っている人たちです。

石黒先生には尊敬する医師がいます。内分泌についての世界的権威の黒住一昌群馬大学教授です。黒住教授は、自分は母の胎内にいる時、母親が腎盂炎で熱も高く、このままではあなたのいのちも危ないから、中絶するように医者にすすめられたけれど、8年目に恵まれた子だから絶対うむと決心し、薬剤師であった父と協力して自分が生まれたことを話されました。もし、あの時、お母さんが中絶していれば、もちろん今の自分はいなかった。すべての人は生きる権利があり、たとえ生まれる前の胎児であろうとも生きる権利はあること。殺される所だったと知れば、誰でも生まれて来て良かった、殺されたくはなかつたと誰でもが叫ぶでしょう、とのべています。また、電子顕微鏡で体の細胞を見て、神のみ造り得ると言うことを誰も否定出来ないでしょうと述べておられます。

南福音診療所のベッドの側のブラウン管に妊娠4ヶ月の小さいのちの鼓動が映し出されています。手足もとっても良く動いているけれど、お母さんにはまだその動きは感じられません。どんな子どもも、奇形の子もいますが「こんな子を生むんじやなかつた」と私の目の前でいう母親は一人もいません。それどころか、一つのいのちを世に送りだしたことにお母さんは本当に満足感を抱いている。けれど、その反対の時は、お母さんは後から精神的な苦しみを担うことになると石

黒医師は述べています。時には仕事の都合で中絶したいとやってくる女性に外来で喧嘩になることもある。いのちより大事な仕事って何ですか！と。

この病院では出産のお祝に聖書を贈っていると云います。そのトビラには石黒医師の大好きな言葉が書かれています。コヘレトの言葉 三章『何事にも時があり...。』

愛知県の静かな山の中で牧畜業を営む竹内さん御夫婦に母の中絶から免れた二人の子どもがまるで本当の兄弟のように、そして、本当の親子のように過ごしている。子どもの世話に追われ、忙しいが充実した日々。本当の親子よりしっかりした絆で結ばれている姿が養子縁組で得ることの出来る両者の幸せを映しています。 日本プロ・ライフ・ムーブメント

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死..... + 郵送料
 [202] 第二の処女生..... + 郵送料
 [203] デート..... + 郵送料
 [204] どうするの?..... + 郵送料
 [205] "NO"という技術..... + 郵送料
 [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
 [207] バージンの瀬戸際..... + 郵送料
 [208] していませんか..... + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィア Ace エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta)...7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
 [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS)...15000 + 郵送料
 [411] (ユース・セミナー) **エイズ時代の性倫理...(VHS)...3800 + 郵送料**
 [500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教え)...2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....660 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
 [511] (本) **赤ちゃん:最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料**
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
 [515] (本) **経口避妊薬:ピル.....100 + 郵送料**
 [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料
 [517] (本) **フマネ・ヴィテ.....300 + 郵送料**

[511] 赤ちゃん:最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬:ピル

注文: 1 - - - - - 5 1部 = ¥100
 6 - - - - - 20 1部 = ¥75
フルカラー 21 - - - 999 1部 = ¥50
 1000 - - 以上 1部 = ¥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

(本) フマネ・ヴィテ

1 - - 30 1部 = 250円
 31 - - 100 1部 = 200円
 101 - - 以上 1部 = 150円

パンフレット申し込み

1 - - 5 1部 = 35円
 6 - - 100 1部 = 25円
 101 - - 500 1部 = 20円
 501 - - 以上 1部 = 15円

は 組
自 合
由 せ
で す

十代の性

(24)

中絶はどの位危険なのですか？

J・C・ウィルキー博士夫妻は、二人の著書「私の生命を奪わないで」の中で、中絶の結果として起きた合併症についての広範囲な調査をしています。肉体的合併症には即時に起きるものと、長期にわたって起きるものがあります。ウィルキー博士達は、即

Q & A

平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。マザー・テレサ

時に起きる合併症の主なものとして、感染症(軽いものから致命的なものまで、全体の25%を占める)、出血(時には輸血が必要な程ひどいものもある)、子宮穿孔(子宮の壁に穴が開くこと)をあげています。長期にわたっての合併症は、多くの場合中絶手術の際に子宮頸管や子宮内膜が損傷されることからくるもので、一子どもが生めなくなることもこれに含まれています。また精神的な問題もありません。

考え直すことが

『沈黙の叫び』を見て

子どもを中絶するというのは、子どもが生まれる前に殺してしまふことだから、子どもは意識がないのだと思っていました。それでもビデオを見て、胎内にいる子どもでも、中絶される時には殺されると分かると思いました。中絶は親にとっては都合の良いものかもしれませんが、子どもにとっては生命を亡くしてしまうものです。

今回のビデオを見て、中絶というものを良く考え直すことができました。そしてやはり、見てみると何とも言えない気持ちになりました。生命の尊さと重さは胎児にもあるのだということを確認できて良かったと思っています。

K・Tさん「高三生」

中絶は殺人だろうか？

ある人が、攻撃者ではない無実な人を邪魔だからという理由で、わざと殺したならば、それは明らかに殺人である。その相手が大人ではなく、子どもだったと考えてごらん。子どもだと、大人の場合と同じような殺人でなくなるだろうか？とても小さな子ども、生まれたばかりの赤ちゃんだったとしても、それはまた生まれてはいないが、生まれる直前の赤ちゃんだったとしよう。それが生まれる一ヶ月前の赤ちゃんだったとしたらどうだろう。そして、更に一カ月以上前の赤ちゃんだったらどうだろう。これ等すべては同じ人としての連続的成長過程の、それぞれ違った時期である。まだ早い段階にある為、ただ小さくて、未熟で、時には目に見えないけれど、長い目で見れば一人の人間である。もしこの過程の後半で殺人とされるなら、早い過程でも同じく殺人であるはずである。

何故中絶は殺人なのだろうか？まず、殺人とは無実な人を意図的に殺す事である。しかし、無実な人を死に追いやる事が、すべて意図的とは言えない。例えば私が沢山の子ども達を乗せたスクールバスを山道で運転していたとしよう。ブレーキが壊れ、バスが崖から落ちそうになって、死ぬかもしれないとすると、私がその悲劇を避けるには、急いで逆にハンドルをきるしかなかったとする。不運な事にそちら側には人が歩いていて、その人はひかれて死んでしまった。注意するには遅すぎた。私が急にハンドルをきったから、その人を死なせてしまった。けれど私はその人をわざと殺したのではない。そしてそれは私が殺人を犯した事にはならない。

次に、殺人とは無実な人を意図的に殺す事である。いのちが危ない程の攻撃を受けたら、自分又は人を守るには、ただ、その人を殺すしかなく、それは正当防衛で、殺人ではない。ここで言う無実とは、侵略者でないという意味である。

これ等は両方、意図的な殺しと無実な人への殺しは、明らかにそっくり中絶に当てはまる。子どもは当然無実である。子どもは攻撃者ではない。子どもは居るべき場所にいるだけである。中絶とは、この無実な人間への

故意の意図的な殺しである。三つ目に、殺人と言つ時、行動に対してのみ殺人という事と、実行者に対して有罪とか殺人犯とかいう事とはつきり区別する事が大切である。つまり、中絶が殺人であるというのは、無実な生まれる前の赤ちゃんを殺すという行動のみを殺人と呼ぶのであり、母親である女性、医者、又は中絶の手助けをした人達の、個人的な罪の判決を下すものではないという事である。

母親である女性の為を思って中絶の手術をした医者は、それが彼女を助けるつもりだったとしても、その行動は殺人になるのだろうか？それは良い動機ではないか。それでもその行動は殺人となるのだろうか？

ドストエフスキーの小説、「罪と罰」で、ラスコルニコフは貧しい人達へ分け与える為にお金持ちの老婦人を殺す。それは良い動機か？恐らくそうだろう。しかし、彼が意図的に無実な人を殺すのは、良い動機であれ悪い動機であれ、殺人である。良い動機であったのは結果としてである。その手段はあくまでも殺人である。もし私があなたの為に、邪魔な無実な人を殺したとして、それによってあなたが大きな困難から救われたとしても、

(8ページへ)

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千円 一千円

無料:毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

現在口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

梅雨までにはあと一ヶ月、晴渡る五月空は爽やかな風を運んで来ます。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか?お伺い申し上げます。

事務所では、緊急支援のお願いを続けております。どうかよろしくお願ひ申し上げます。切手スポンサー、全体のスポンサー、どちらもあり難いです。そして、それは小さなのちにも喜びとなるでしょう。

昨日(2月17日)、カトリック高知地区信徒協理会でプロ・ライフの活動内容を説明し、支援をお願いしました。平成11年の母胎保護法による中絶件数(337,314)をお知らせし、実際はこの2~3倍の件数になること、なぜなら、中絶したことを各医師は厚生労働省に届けるように義務つけられていないからと、そして、この337,314件数であらわされる337,314人のいのちは一年で高知市位の人口の町(327,639人)が一瞬になくなっていくことをお伝えすると、「以外と少ないね」との声に唖然としながらも、「いのちの源である神よ」と祈る時の私たちの心の置き場所のずれを感じずにいられませんでした。私たちのプロ・ライフ・ニュースに記事を書いていただけませんか。専門的でも、一般的でも結構です。または、記事を書いて下さる方を御紹介願えませんか?中絶、エイズ、バイオエシックス、避妊、死刑、積極的安楽死、家族、同性愛、生命、臓器取引、人口、中絶後の癒しなどに関するものを事務所では待っています。

タゴールの言葉に、『どの赤ん坊も、神はまだ人間に絶望していないというメッセージをたずさえてくる』というのがあります。生の根源に近い子どもや女性を好んで書いたタゴールの言葉を母の日の記念として皆様にお贈り致します。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

(7ページから)

私は善意からしたかもしれないが、私のとつた行動は、やはり殺人である。これはまさに中絶の手術を行う医者に当てはまる。良い動機であろうとなかろうと、医者は殺人を犯しているのである。

中絶した女性達は、殺人を犯しているのだろうか?一部の女性達は文字通り強制的に中絶させられていて、もちろん全く殺人を犯した事にはならない。しかし、一部の女性達は中絶する事を自発的に決め、後からそれを深く後悔する。その行動自体は殺人であることにはちがいない。それでは彼女達は個人的には有罪だろうか?彼女達の罪が軽減したり、なくなったりする要因は沢山ある。中絶とは何か知らない場合、そして利他的な動機、例えば、「両親を辱める位なら、中絶した方がいい。」と考えた場合等である。ある意味では女性達も、周りによってそうせざるを得ない、という意味で、中絶による二番目の犠牲者である。彼女達は赤ちゃんを生みたいのに、現実的な方法が他にないからというだけで、中絶に賛成してしまっている。

医者の動機や女性の動機、周りの状況がどういふ事情であれ、中絶という行為、小さな子どもを意図的に殺すという事は、殺人なのである。

四つ目に、中絶が殺人であると私達が言うのは、ここでは道徳上においてであって、法律上の事ではない。意図的に無実な人を殺すという行為が、法律

的に殺人か否かを決めるのは、もちろん法律である。そのような殺しが法によって許されている所では、もちろん中絶は法律的な殺人ではない。だからナチスによる大量虐殺は、当時法律的には殺人とは言わなかった。しかし、一番大切である道徳のセンスから言えば、それは明らかに殺人であった。ナチスによる大量虐殺とは、自分達を守るすべを持たず、ある意味で違った、又は違つとみなされた無実な人達を邪魔だからという理由で、ひとまとめに殺してしまふ事だった。それは今日の中絶に、そのまま当てはまる。

何が法律で許されていて、又は法律で命令されていたとしても、だからといって道徳的にも問題がないとは言えない。意図的に無実な人を殺すのは、相手がどの歳でも、どこに居ても、道徳的には殺人である。どんな法律だつてその事実だけは変える事はできない。

最後に、中絶は殺人であると強調する事が大切である。そうしなければ、中絶は悪い事だけれど、又人のいのちを奪う事だけれど、どこか普通の殺人よりは悪い事ではないのではないかと思わせる印象がある。そうではない。それは道徳的に見れば、生まれた後の無実な人を意図的に殺すのと同じ事なのである。



bkinterhooh2